

新しく出た機械
ククテイスのクリトで
試してあげるわね
ソニックバイズだつてよ

バイズ……？
でも震えるやつって
：あんまり……

確かに振動つて刺激が強すぎて
快感になりづらいのよね
人によるでしょうけど

でもそれは直接触れないで
神経を甘くく振動させるのよ
きつとすごいんじゃない？

タイトツ越しでもわかるくらい
おぴんこ勃ってる♥
ほんとはまんよわい…

ポカッ

おぴっ…
ちよっと先生
クリトするまえに
笑わせないでよ

え〜可愛くない？
クリトをおぴんこって
そう呼んでみてよ

ぜったい呼ばないですよ！
恥ずかしいすぎるもの



じゃあいくわよ
スイッチON♡

音波がおびんこを
甘くヨシヨシして
くれるからね♡

…お…お…お…♡
…おこ…おれん

だんごだんご♡

だんご

だんご♡

でしょ？ 最初から
「お」系の声が出るときは
すごいことになるもんね
すこしずつ精度が上がって
どんどんすごくなるからね♡

い…い…い…おね…

あとで直すからね
あらあら タイツの中
こっぴり蒸らしちゃって♡

ククティスの淫臭におい……♡

臭いじゃや……

これ……くし下を
狙ってくみるの……？

そうよ
まだ直撃してないから
そこそこでしょ？

はっ♡

はっ♡

む

わ

っ

当たり前ですみ……っ
そんな恥ずかしい……

……おぴんこって
言わないのね……♡

「おふろじゃないの……？なに……これ」

コロコロした少女の顔は不安げです。何も入っていない大きな桶……そして蛇のようにのたくり、彼女の幼い股間をねめつける3本の筒。森で見たどんなものとも異質な、冷たい印象の物体に、本能的に距離を置こうと身をじります。

「や……あ」

「大丈夫、安心して……」

この機械があなたに触れることは無いわ
ただ、音波を当てて、マッサージしてくれるのよ
身体がほぐれて気持ちよくなるわ」

それでも、まだ少女は不安そう。

そう説明する魔女の鼻がくんくんと動き、少女の体臭を吸い込んでいました。

この子……赤ちゃんのときに一度、偶然のオナニーで絶頂してる。けどそれだけ……意識して自慰したことも無いのね……

「へ……？ え……」

少女はぴくりと反応しました。少女の萌肉に埋もれた淫のかたまりを、直に……甘く甘く、振るわせられて……

——とはいえ、まるつきり性の意識が無い状態。すぐに快感になるわけではありません。魔女は何も言いません。「気持ちいいでしょ？」などと無理に意識させるのは、かえって快感を逃がすということでしょう。

少女が自然にその感覚を受け入れ、心地よいと感じ始めるのに任せます。それまで小さな身体を抱き、じっと待ち続けます。何分でも、何十分でも……

「……………」

半刻ほど経ったときでしょうか。甘く閉じたわれめが切なげに「きゅっ、きゅっ」と収縮を始めました。少女の目はうっとりとし、ときおり小さく、ぶるっと震えます。



「は……はん♡! う……!!
……ひはん♡! は♡!」

急に少女の鼻息が荒くなった……と思った数秒後、そのちいさな身体が痙攣して、吐息混じりの小さな声がお口から漏れました。小指すら受け入れられない、成熟度ゼロのおまんちよが高速で収縮します。自由の利かない姿勢のなか、少女の本能は、できる限りそこを無防備にしようと両脚を開き、つま先をぴんと張らせます。

「ひ、はあ♡! はあ、あ♡! あ♡!」

時間をかけた甲斐があったのでしよう。よほど深く達したらしく、何度も何度も声を漏らし、痙攣も止まりません。よだれも垂れ流しになっており、体臭にも甘みが増しています。

——数分間に及ぶ極上のオーガズムを果たしたのち、少女は脚をだらんと垂らして可愛らしく安心してしまいました。まだぴくぴくと震えています。

「まさか一回で飛んじやうなんてね……♡すごいイキ方したもんね……でもまだまだ終わらせない。あなたの全てが快感に狂うまで……♡」



愛液を搾るの……久しぶりね

シキキ……

シキキ……

シキキ……

んきゅ……♡

きゅ……♡



なるほど...
...体内が直にシエイクされる感じ...
...悪くないじゃない...
シエイク...

シエイク...

シエイク...

シエイク...

シエイク...

ガクガク
ガクガク
ガクガク
ガクガク

シエイク...
シエイク...





お花畑ーっ♡
おおおおおおお
いいいいいい
♡♡♡♡♡♡♡

ははあっ♡！ イクー！ すっ♡
卵薬でイクの久しぶり！ いいいいいい
いい味わいだわああ…♡
卵薬性感と…子宮口
…クリイキが掻き混ぜて…♡

びびん

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ブツブツ

びびん

びびん

びびん

びびん

Shinji